

6-6		主題	お客様と職員の双方にとって 安全で安心な介護を目指して	
介護技術の向上		副題	介護事故防止の対策に介護技術が必要です！	
介護事故防止				
研究期間	6ヶ月	事業所	富士見台特別養護老人ホーム	
発表者：佐々木 智孝			アドバイザー：	
共同研究者：桜本 淳、村井 直人				
電 話	03(5241)6010	メール	fujimi-tokuyou@nerima-swf.jp	
FAX	03(5241)1760	URL		

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	緑の多い閑静な住宅街に位置し、施設内には地域包括支援センター支所、居宅介護支援事業、通所介護事業を併設している56床（SS含む）の施設です。近隣は練馬区内一番の高齢化地域となっています。施設は、認知症になっても安心して暮らせる地域の核になれるよう、施設内事業全てが連携、協働して取り組んでいます。
------------------------------	--

《研究前の状況と課題》 平成22年度に報告された事故・ひやりはっと報告は736件ありました。その中で一番多かった事故は、内出血等の外傷の発見（305件）でした。これは56床の特養ではかなり多い件数だと思いますが、これまでに取り組んできた成果で、1cm程度の内出血でも報告してくれる報告体制が整った結果だと考えています。あとは、細かな報告を活かした事故防止対策を行い、事故を減らして行くだけでしたが、事故発生時にその場で実施している事故検証では、要因の殆どが高齢による皮膚や血管の脆さ、内服薬の関係等があり、トランスや着脱などの介助時にできた可能性が高いとなっていました。その対策として、アーム、レッグウォーマー等での保護、ケア提供時に細心の注意となっていました。繰り返されるケースが多く「防げない事故」と判断されてしまう大きな課題が発生してしまいました。	《研究の目標と期待する成果》 事故防止を行い、お客様に安全で安心な施設生活を送って頂く。 職員の事故防止対策を考える力を向上させてもらいたい。 移乗技術の向上によって、お客様と職員双方にとって安全で安心な介護技術を確立していく。 事故を減少させたことで、事故・ひやりはっと報告書を作成する時間（超過勤務）も減少させ、職員の負担を軽減させたい。
---	--

《具体的な取り組みの内容》

- ①CW 会議（介護士会議）で、定期的に事故防止勉強会を実施し、内出血を繰り返しているお客様を対象に事故検証をやり直し、検証を掘り下げ、新たな事故防止対策を講じた。また、勉強会により職員の事故防止対策を考える力と意識を向上させた。（平成 23 年 1 月より）
- ②全てのお客様に人体図を準備し、外傷発見時に細かく記録し、2 カ月ごとに「本人の要因」「環境の要因」「介護者の要因」を見直し、対策を検討、周知する仕組みを作った。（平成 23 年 3 月より）
- ③安全で安心な介護委員会を設立し、キネステックを主としたトランス技術研修に参加。得た技術や知識を定期的に伝達研修することで職員の介護技術向上を図る。介護事故防止委員会と連携し、トランスが原因になっているお客様を個別に検証、安全に移乗できる方法を複数検討する。方法が 1 つでは、職員個々の技術に差があり、安全ではないケースがあるため。（平成 23 年 4 月より）

《取り組みの結果と評価》

- ①事故発生ごとに実施していた事故検証や防止対策では、効果が上げられなかった事例でも多数での視点から新しい発想や気づき生まれやすくなった。参加した職員からも「勉強になった」「悩んでいた対応が解決した」等のコメントもあった。
- ②人体図を活用することで、外傷の発生部位を正確に把握することができるようになったため、繰り返しなどの状況把握がしやすく対策を講じやすくなった。発見された内出血が観察しやすく処置をする看護師から好評。定期的な業務としたことで、事故防止等の意識向上にも繋がっている。
- ③特に委員のメンバーの技術力が向上し、法人内の研修の講師補助を依頼されるまでになった。福祉用具の活用も見直したことで、用具を活用している施設として業者の HP に商品紹介等の記事を掲載するために取材を受けるなど、外部からの評価を得られた。職員によっては、技術的な問題よりも業務に余裕がなく、無理な介護をしている例も発見できた。

《まとめ》

取り組みを始め、事故防止以外の効果はすぐに目に見え始めたが、技術的な向上には時間が必要。また、外傷の要因は、複数あり完全に防ぐことは不可能に近く、難しい事例も多く存在しているが、介護者や環境が要因になっている介護事故については、しっかり要因分析することができれば、必ず解決できるとも知る事ができた。

《提案と発信》

様々な方が生活している介護施設では、事故を完全に防ぐ事は困難です。しかし、施設で生活されているお客様やご家族の方達は、施設を信頼して利用して下さっています。また、介護の職員にとっても忙しい業務の中で事故が発生すると、その対応等でさらに業務が増える事になります。お客様と職員双方にとって安全で安心な介護を提供できる施設作りを目指しています。

【メモ欄】